

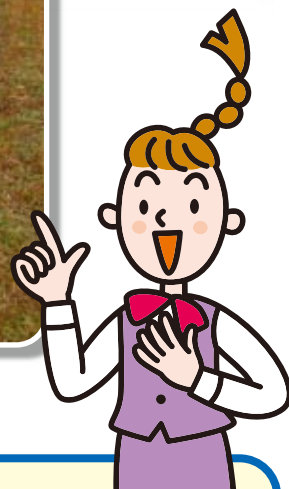
さめき水田営農だより

需要に応じた麦の生産拡大にご理解を!

本県は、気象・土壌条件などに恵まれていたことから、水田裏作の基幹作物として古くから麦が栽培されています。

また、これまで実需者のニーズを踏まえ、需要に応じた高品質麦の安定生産を行ってきました。

今後とも、需要に応じたはだか麦や小麦の作付けとともに、排水対策の徹底など、基本技術の励行による高品質麦の安定生産を進めましょう。

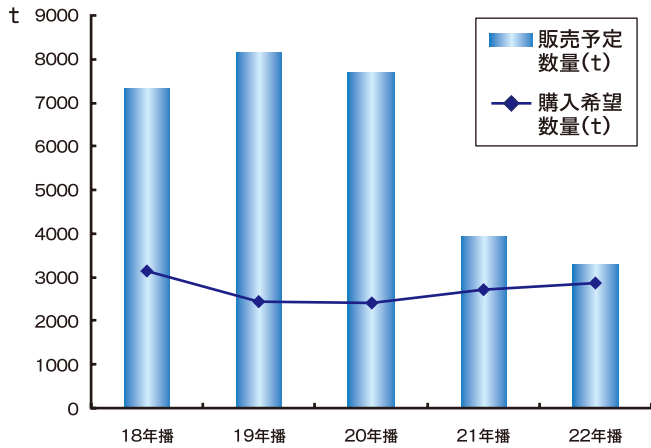


麦作のメリット

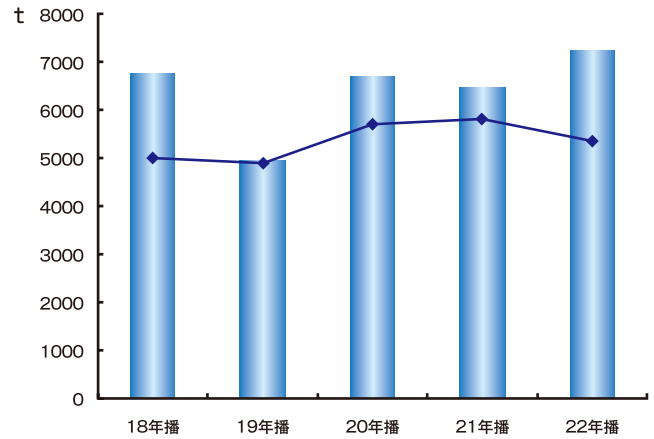
- 麦は水稲と比べて労働時間が短いことや、主要な農業機械が水稲と同じであることから、少ない設備投資で規模拡大が可能です。
- 冬場の休耕地に麦を作付ければ、雑草を生やさないなど農地の維持管理が可能なおうえ、麦の収入が得られます。

平成23年播きの需給状況

はだか麦と小麦の実需者の購入希望数量と販売(生産)予定数量の推移



はだか麦の販売予定数量と購入希望数量の推移



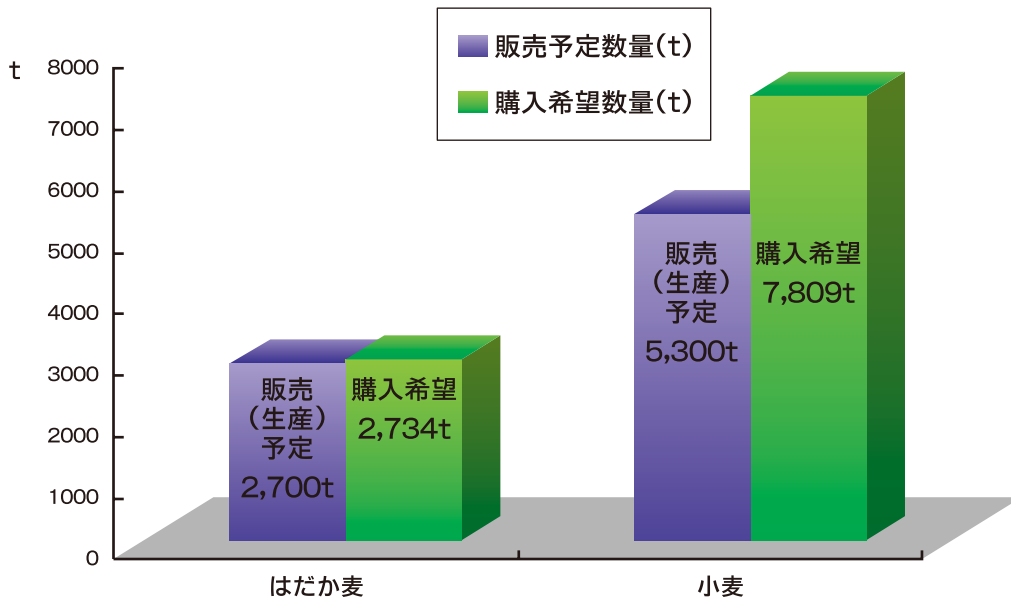
小麦の販売予定数量と購入希望数量の推移

はだか麦

・平成21年播き以降は、ほぼ需給バランスがとれた状況となっています。

小麦

・平成23年播きにおいて、販売(生産)予定数量に対し、購入希望数量が2千トン程度上回り、本県産小麦に対する需要は大きくなっています。



平成23年播きの販売予定数量と購入希望数量

●はだか麦 → 需給状況は逼迫

・現状の作付面積の維持と安定生産 !!

●小麦 → 生産予定に対し、需要は大きい

・需要に応じた生産拡大とともに、新品種「さめきの夢 2009」の段階的な導入

麦の安定生産のポイント

麦づくりは、最初が肝心！

播種前からの排水対策を万全に、適期の播種に向けて、ほ場の準備を進めましょう。

作業のポイント

播種前からの排水対策

- ・ほ場の周辺とほ場内に排水溝を設置し、乾田化を図る。



参考:小麦新品種「さめきの夢2009」の導入



「さめきの夢 2009」は「さめきの夢 2000」の後継品種として県農業試験場が育成しました。

「さめきの夢 2000」に比べ収量性、うどんの食味評価とも優れています。

今後、計画的な種子生産とともに、本品種への切替を進めます。



品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	一穂 粒数 (粒)	倒伏	穂発 芽性	脱粒性	収量 (kg/a)	左右 対比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)	外観 品質	蛋白 含有率 (%)
さめきの 夢2009	4.4	5.27	72.1	8.3	490	29.3	無	やや難	中	55.7	110	813	38.9	上上	7.8
さめきの 夢2000	4.6	5.28	73.6	6.7	524	24.9	無	やや難	やや易	50.7	(100)	829	38.9	上上	8

出典：香川県農業試験場ホームページより

「さめきの夢2009」への切替計画

- 平成23年播きは、種子生産量を勘案し、高松市、三木町で導入予定
- 平成24年播きで、本県産小麦を「さめきの夢2009」へ全面切替予定

生産の拡大や安定に活用しよう! ~各種助成制度の紹介~

農業者戸別所得補償制度

注)23年度の制度であり、24年度では変更になることがあります。

畑作物の所得補償交付金

● 営農継続支払

前年産の生産数量を県の実単収で換算した面積

20,000円/10a

● 数量払

品質区分による加算が設定

(円/60kg)

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦	6,450	5,950	5,800	5,740	5,290	4,790	4,640	4,580
はだか麦	7,890	7,390	7,240	7,150	6,320	5,820	5,670	5,590

水田活用の所得補償交付金

● 戦略作物助成

35,000円/10a

● 二毛作助成

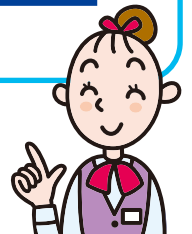
15,000円/10a

● 産地資金

・ 麦担い手集積加算 3,500円/10a

法人格を有する場合、さらに加算 2,000円/10a

・ 麦作拡大加算 12,500円/10a



県・JAの助成事業等

● 力強い水田農業対策事業(県単独補助事業)の活用

1) 「さめきの夢2009」による県産麦の再構築事業

当初、はだか麦も含めて実施予定でしたが、需給状況を踏まえ、小麦の生産拡大への支援として、平成23年度の小麦の「さめきの夢2000」、「さめきの夢2009」の作付けに対し、平成22年度の作付けより拡大した面積の種子代相当額を助成します。

※ 助成対象は、はだか麦を含めて2麦種合計の作付面積を拡大し、かつその拡大面積のうち小麦の拡大面積に限る。

【補助率】

正種子の実勢販売価格の定額:10kg/10aとして(県 1/3、JA 1/3、実需者 1/3)

※ 種子価格は10月頃に決定される予定です

2) 力強い水田農業条件整備事業

(1) 整備事業

認定農業者や営農組織等を対象に、麦の生産拡大に必要な営農用機械などの整備に対して支援を行います。

【補助率】

1/3以内

【補助対象の営農機械】

乗用トラクター、コンバインなど

(2) 生産性向上対策事業

認定農業者や営農組織等を対象に、麦の生産拡大に必要な小型の営農用機械などの整備に対して支援を行います。

【補助率】

30%以内

【補助対象の営農機械】

麦播種機、トラクターのアタッチなど



● JAの作業支援による麦作付推進

現在、JAにおいて麦の播種や収穫作業などの麦の作業支援を検討しており、今後、具体的な支援内容などをお知らせします。

まゆみ農事組合法人

組合長：佃 光廣 構成員数10人

耕作放棄地になりそうな農地を 中心に借り入れて作付拡大！

～耕作放棄地対策と麦作拡大の一挙両得～

●組織活動の特徴

耕作放棄地対策の一環として麦作について取り組み、耕作放棄地になりそうな土地を中心に耕作依頼を受け年々作付面積を増やしてきました。現在は地域から頼りにされる組織に成長しています。

●代表者から一言

地域の農地を守っていくためには、皆が地域の将来を考え協力して取り組むことが必要です。これからも地域の活性化に貢献できる法人として活動していきたいと思います。



21年播き

作付面積 8.7ha
単収 224kg/10a

拡大面積：0.7ha
増産量：22,906kg

22年播き

作付面積 9.4ha
単収 451kg/10a

組織！共同作業！麦の作付拡大はここがポイント！

※「平成21年播き香川県麦作拡大コンクール」の受賞者は、
22年播きでもさらに拡大されました!!

農家個別面談と目視による 農地の選定とマッチングで 確実な作付拡大！

～役員等が中心となった共同作業～

麻野宮農組合

組合長：高田 幸雄 構成員129名

●組織活動の特徴

役員や運営委員が中心になり、共同作業（部分共同作業を含む）と一部共同経営の試行により麦の作付拡大に取り組んでいます。

作業班全員でのほ場巡回を実施し、防除時期の見極め、追肥の決定を行い、安定生産に努めています。

●代表者から一言

「考えてもしかたがないので、やってみないか」という方針で、麦の拡大に取り組んできました。



21年播き

作付面積 22.7ha
単収 401kg/10a

拡大面積：2.0ha
増産量：6,072kg

22年播き

作付面積 24.7ha
単収 392kg/10a

集落営農で地域の水田を守ろう

皆さんの周りで空いている田んぼが目立つようになっていませんか？
元気な農家の皆さんにとっては、規模拡大のチャンスです。
集落営農に取り組みれば、地域の水田を楽に守ることができます。

集落営農は集落内のみんなが協力することにより、お金をかけずに地域の水田を楽に維持することができる取り組みです。

地域を守ることができる組織づくり

1 共同化による効率的な農作業

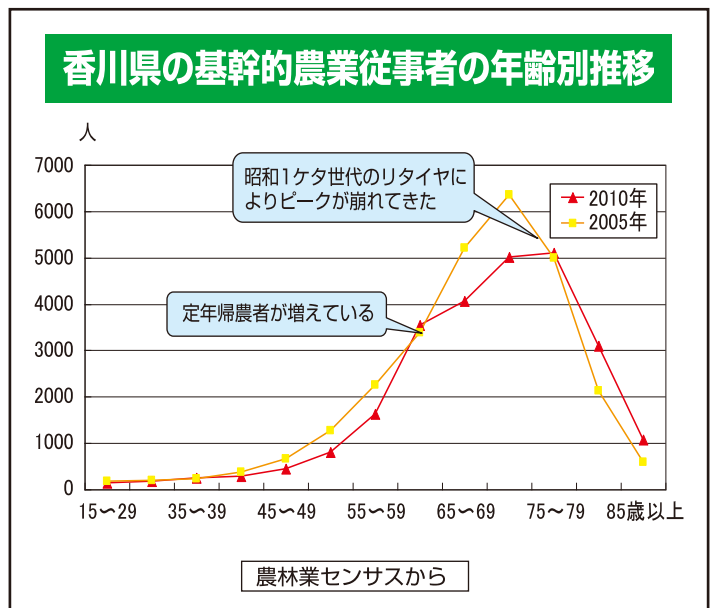
我が家の労働力は不足してませんか？
少ない人数で地域の水田を守るためにはどうすればいいでしょう？

2 郷土愛を活かした組織づくり！

稲作だけの農業では、収益が少ないのは皆さんわかっています。集落全体で協力すれば楽にお金をかけずに営農を続けることができます。

3 集落内の人材を活かした組織づくり！

農業機械の操作の上手な人、高齢者や女性の能力…どうやって活かしますか？
野菜づくりや加工品開発など、集落内の人材を活かした組織づくりが大切です。
数字に強い人は会計の担当もいいのでは？



① 集落を点検 ② 将来のビジョン ③ 組織化

①～② 集落を点検し、将来のビジョンをまとめよう

最初は有志が集まり、集落営農を考える会を作りましょう。

まずは集落内の話し合い活動から！

②～③ 集落の将来を見据えた組織化

誰が管理する？ 「Who」
どの農地を？ 「Where」
何の作物を作って？ 「What」
どうやって？ 「How」

3W1Hで
考えてみましょう



集落営農を進める上でのポイント

集落営農を考える

集落の皆で協力し、より良い営農や生活・農村環境を目指すのが集落営農です。

集落内の農業者の協力の下、個々の農業者のやる気・体力・経験・技術を活かせる役割分担にすることで効率的な経営が可能になります。



ポイント1 集落の寄り合い等を活用し、話し合いを進めよう

○ 基本は話し合い

気の合う仲間らと集落の将来について話し合い → 集落の寄り合い等で提案
(提案のやり方や集落営農の推進体制づくりは、市町や普及センター、JAに相談)

ポイント2 中心となる人材(リーダー、経理担当者等)の掘り起こし

○ 集落営農のリーダー探し

集落をより良い方向に導くことができる人を選定

リーダーと協力し集落営農を進めることができるサブリーダー(2~3名)も必要

○ 経理担当者を探そう

集落の中で数字に強い人はいませんか?

複式簿記の研修は市町や農業改良普及センターで実施しています。

ポイント3 集落内の農業者に対する説明と理解促進

○ 集落営農の組織化に向けた理解促進

集落の寄り合い等で話し合い、集落営農の意義の理解促進を深めましょう。

県内外には集落営農組織の様々な先進事例があります。担い手や農地情報など自分たちの集落と比べて考えてみるのもよいでしょう。

○ より良い営農に向けた話し合い

まずは話し合いから。できるところからはじめる意気込みで!

困っていることを皆で考え、その解決策を考えましょう!



集落営農にはこんなメリットも!

農業者戸別所得補償制度における「米の所得補償交付金」は、集落営農組織で水稻共済に加入すれば、自家消費米等分は、集落営農全体の主食用米の作付面積から10%控除されるだけなので、小規模農家が個別に申請するよりも交付額は大きくなります。

●集落営農に関心のある方は、お近くの農業改良普及センター、市町、JAにお問い合わせください。

「ヒノヒカリ」の水管理

6月中下旬に田植えをした「ヒノヒカリ」は、8月に入ると、幼穂形成を始めます。この時期は、収量、品質、食味が決まる大切な時期です。稲の生育に応じた水管理を行い、品質、食味ともに最適な状態に育てましょう。

水管理の注意

中干し期間が長くなると、収量低下や品質不良の原因になります。

地域の栽培しおりに準じた水管理を心がけ、中干し終了時期は、決して遅らせないようにしましょう。

中干し後は間断灌水で根の活力を保ち、穂ばらみ期から出穂開花期ごろまでは湛水します。

その後はできる限り収穫直前まで土壌中の水分を保つように、間断灌水を行います。



出穂期の水管理が不良なほ場の様子

水管理の目安

生育ステージ	水の必要度	水 管 理	要 点
幼穂形成期 ～穂ばらみ期	○	間断灌水	最初はほ場の高い所がつかれる程度入水し、徐々に灌水と落水を繰り返す。
出穂開花期	◎	湛 水	走り穂が見え始めた頃から、穂揃いまで湛水する。
乳 熟 期	○	間断灌水	穂揃い後は、灌水と落水を繰り返す。
黄 熟 期	○	落 水	収穫5～7日前に落水する。
成 熟 期	×	機械利用に支障がない程度に土壌水分をとどめる。	早期落水は登熟不良の原因となる。

水の必要度 ◎；最も必要、○；ある程度必要、×；必要ない。



出荷・販売したお米の伝票等は3年間保存してください。



米トレーサビリティ制度では、生産した米・米加工品などを出荷、販売した場合には、取引の記録や産地情報の伝達が必要となります。

JA、業者へ出荷又は販売した場合

取引の記録の保存と産地情報の伝達が必要です。

取引の記録

平成22年10月1日から

米や種もみを出荷、販売した場合には、その記録を作成して3年間保存して下さい。

消費者への直接販売、自家消費、無償譲渡（縁故米）等の記録は不要

【必要な記録事項】

- ① 名称 ② 産地（香川県産や国内産など）
- ③ 数量 ④ 年月日（出荷日、販売日など）
- ⑤ 出荷先（販売先） ⑥ 搬出入の場所

▲ 米穀の用途（米粉用米など）

注：米粉用米、飼料用米など用途が限定された米については、米穀の用途の記録が必要です。

消費者へ直接販売した場合

産地情報の伝達が必要です。

産地情報の伝達

平成23年7月1日から

（飼料用米などの非食用は不要です。）

米・米加工品などを出荷、販売する場合には、産地情報を相手に伝えて下さい。

外食店では、お客さまに対し、メニューやポップなどで、お米の産地を伝えることが義務付けられています。

米トレーサビリティ制度に関するお問合せ先

香川農政事務所食糧部 TEL 087-831-8153

●内容に関するお問い合わせ先／

香川県農協中央会指導部指導課

TEL：087-825-2503

香川県農政水産部農業生産流通課

TEL：087-832-3418